

緑ネット通信

No.86

緑のネットワーク・まつど

代 表：藤田 隆
 年会費：1000円
 口座番号：00170-9-696174
 連絡先：高橋盛男 090-2935-9444

都市の緑を残すためには、緑を見守り育む人のネットワークが不可欠です。私たちの活動の目的は、みどり特に樹林の保護・保全を願う人やグループと連携しその輪を広げ、豊かな生態系を保つ森を次世代に伝えることです。

松戸のみどり再発見ツアー

新松戸のみどいをつないで関さんの森へ

藤田隆・渋谷孝子

10月14日晴天、参加者20人、ガードをくぐり駅東側のミカン畑の間の階段を登る。かつて大きなボリュームの斜面林だった所だが、農業が続いていることでかろうじて残った「みどり」である。台地上に登りきると、谷の向こう側に「溜ノ上の森」が見えた。間の低地にはかつて稲作に欠かせない溜池があったが、その脇の溜ノ脇公園で溜ノ上の森についての説明をした。

地権者の関さんは、隣地の住宅開発が行われるたびに、高木を伐採したり緩衝帯として道路用地を提供したりしてきたが、それでも台風が来ると倒木や落枝で住宅に被害が及ばないか、心配でたまらないとおっしゃっている。また整備活動を行うボランティアはイベントや自然の様子などを報告する「溜ノ上たより」を定期的にポスティング、春には笛を配布することで、隣接住宅との関係を気遣っている。



公園の日陰で森の活動についての説明

森を出てすぐに人気のブランドレモンの畑に立ち寄る。ココも斜面林が農地になったところだ。途中東漸寺の裏の斜面林、

関さんの森の緑の手前に花島家の立派なスタジイと、緑の景観をつないで関さんの森へ向かう。

「関さんの森」は誰でも入れる屋敷林と梅林と関家のお庭等の総称だ。まず北側から屋敷林に入り、ぐるっと案内した。一番低い部分には、かつて農耕に利用された溜池が今もある。今では絞り水も少なくなったが、枯れることは無く、年に一回は池の掃除をするという。

近所にある幸谷小学校の児童が毎年二回自然観察に来る。市内には学校林のある小中学校、幼稚園/保育園

はあるが、自然が活用されているのは数パーセントだという。毎年続けていることに、学校にも、受け入れている「関さんの森を育む会」にも敬意を表したい。(松戸里やま応援団の森でも小学校、幼稚園、保育園が訪れて自然観察学習を行っているところは多い。)



お庭で関美智子さんからお話を伺った。先代の関武夫さんが「未来の子どもたちのために残したい」と始めた経緯や想いなどをお聞きすることができた。

参加した虫好きの小学生は、ホソミイトトンボ、アケビコノハにとっても関心を持ってくれたようだ。

普段はアメリカに住んでいるという参加者に話を聞いた。アメリカでアド街ック天国やNHKの番組で見て「日本に帰ったらやることリスト」に加え、今回参加したという。松戸に生まれ育ち、将来的には松戸に定住を考えているという。若い時、6号線の向こうで働いていたが全く知らなかった。関さんのお話を聞いて森を残す努力をされたことがとてもうれしい。日本に帰ってきたときには自然保護について学んでコミュニティを広げていけたら、と考えていると語ってくれた。

里やまボランティア入門講座 2024

22 年目の新機軸、ポスターセッションを導入

里やま講座 ポスターセッション担当 高橋盛男

今年度が 22 期目となった松戸の「里やまボランティア入門講座 2024」（以下、里やま講座）。新たなプログラムが加わるなど、例年とは少し変化が見られた講座の様子を報告します。

既存の森での活動を促す方針の転換

2024 年度の里やま講座は、10 月 12 日から 11 月 16 日までの土曜日 5 日間で開講されました。今回の目立った変化のひとつは「修了者に既存の森での活動を奨励する」という方針を掲げたことです。

松戸の里やま活動はこれまで、里やま講座の修了者が自主的に団体を立ち上げ、個別の森をフィールドとして活動に入るかたちが慣例化していました。しかし、活動の場となる森を新しく見出すことが難しくなっていることと、会員の高齢化を課題とする既存団体が増えている現状から、上記のような方針の転換が図られました。

一方、従来と同様の新規の森での活動も、受講者の主体性を尊重し、活動の選択肢を狭めないようにする意図から、その意向を妨げない配慮もなされました。

ポスターセッションを用いたマッチング

上記の一部方針の転換から、今回初めてポスターセッション「見てみたい森を探そう！」が講座 2 日目のプログラムに加えられました。

ポスターセッションは、各団体が展示パネル（ポスター）を用い、森や活動の特色や魅力を紹介するものです。受講生が思い思いに関心のあるパネルのもとへ訪れ、団体の方に詳しい話を聞くかたちをとります。そこで得た情報をもとに見学したい森を選んで訪問



し、受講者に実際の森や里やま活動により多く触れてもらうことがこのプログラムの目的です。

参加団体は里やま応援団 12 団体に、関さんの森を育む会、溜ノ上の森の会と緑ネット、松戸市緑推進委員会の 4 団体を加えた合計 16 団体となりました。

好評だったボランティアとの直接対話

この日の受講者は 15 名。積極的に各パネルを回り、説明を聞いていました。その日のふり返りとなる気づきメモでも「森の人達と直接話ができてよかった」「一気に身近に感じるのがでた」「森ごとに個性があって、とてもすてきだった」など概ね好評でした。

訪問希望先は 13 カ所。森の訪問希望者数は約半数強に留まりましたが、訪問希望者はほぼ希望した森を訪ね、1 人で 5 カ所を訪問した方もいました。

今年も迎えられた新しい森仲間

今回の講座の修了者は 15 名（男性 9 名・女性 6 名）。受講中から既存の森での活動に入った方もいました。さらに、講座後の受講生による交流会では、22 期生の会として「にゃんにゃんの会」が発足。今後の取り組みが期待されます。

また、講座後の 11 月 30 日（土）には、昨年に引き続き「1 日里やま体験会」も開催。こちらには 7 名（男性 4 名・女性 3 名）の参加がありました。松戸のみどり、里やまに目を向け、参加される森仲間がまた増えたことを喜ばしく思います。



4 日目三吉の森にて



5 月田植え・9 月稲刈り・10 月脱穀 親子で田植え/稲刈り体験「根っ子の会」

三嶋 秀恒

根木内歴史公園の低地は、昭和 30 年代までは上富士川に沿って田んぼがあり、耕作をしていたところでしたが、昭和 40 年代になると耕作されなくなりヨシ原になっていました。

2006 年にボランティアグループ「根っ子の会」が立ち上がって、昔の原風景の再現を検討していたところ、2009 年から田んぼの造成に着手し翌年には米作りを始めました。当初は川からポンプで汲み上げをしていましたが 公園緑地課の尽力で地下水の補水設備(深さ 30m の井戸)を設置してもらいました。田んぼの広さは 初年 80 m²でしたが その後増設で 150 m²に拡げて、もち米(品種:マンゲツモチ)を栽培しています。古い耕運機と格闘しながらの作業で、田んぼの手入れはなかなか苦労が大きいです。

根木内小学校家庭教育学級の親と子どもと 近隣の子どもたちにも参加を呼び掛けて、5 月に田植え体験、

9 月に稲刈り体験を実施しています。田植えでは お米が採れるまでの日数:イネが 140 日をかけてお米を実らせることの話をし、稲刈りの後は竹で組んだハザに架けて天日干し、脱穀では昔から農家で使っていた足踏み脱穀機と唐箕(とうみ)を使うことなどを披露しています。松戸市では稲作はほとんど行われなくなっています。身の回りで田んぼや稲を見るチャンスのない都会っ子にとって、貴重な体験となっていることでしょう。

田植えイベントの時に餅つき体験を行い、前年に収穫したもち米を使つての「お餅つき・お楽しみ会」で各種お餅(アンコ・キナコ・オロシなど)をご年配の方々や子どもたちに提供した時は大変好評でした。ただ現在はスタッフの高齢化で「餅つき・お楽しみ会」が出来なくなっているのが残念です。



まつどの森は！秋も元気でした！！・・・各森の報告書より・・・

- 9/8 ぷらっと子どもの森(囲いやまの森)
- 10/3 保育園児 50 名来森(石みやの森)
- 10/6 子どもとまつど「森をあそぼう」大人 8 名
子ども 8 名(小浜屋敷の森
・甚左衛門の森) 写真右
- 10/13 ぷらっと子どもの森
- 11/10 子どもとまつど
「森をあそぼう」9 組 18 名
の親子(石みやの森・野うさぎの森) 写真右



- 10/13 ぷらっと子どもの森(囲いやまの森)
- 10/17 保育園児 45 名 森あそびと収穫体験
(石みやの森)
- 10/26 森の音楽会
一般 41 名,演奏者
26 名,里やま 15 名
(囲いやまの森)
写真右



- 10/29、11/27 毎月亀有から電車に乗ってこども園
園児がやってくる(関さんの森)

11/7 保育園児 53名

来森 (石みやの森)

写真右



11/10 子どもとまつど

「森をあそぼう」親子9組

18名 (石みやの森・野うさぎの森)

11/6 幸谷小1年生 96名、11/12 に幸谷小2年生 88名が自然体験(関さんの森)

11/14 松戸モリヒロフェスタ (21世紀の森と広場) に里やま応援団で出店

11/17

「あそびの森」

大人 94名、
子ども 76名
(囲いやまの森) 写真右



11/17 千葉県里山林保全整備推進地域協議会の「ロープワークによる伐倒研修」(野うさぎの森)

11/20 樹護の会 活動発表会 (野中の森)

11/30 一日里やま体験会 参加者7名 (石みやの森・野うさぎの森)



2/3 保育園児がバスに乗ってやってきた (関さんの森) 写真左

12/8 ぷらっと子どもの森 (囲いやまの森)

12/19 ゆいの花公園で「ミニ門松講座」(三樹の会) 写真右



9月～ ナラ枯れの危険木について、みどりと花の課へ各森から9月報告、11月現地確認、その後、業者による12月分の伐採が完了した。(ナラ枯れでは太い枝も早く枯れて落ちるため、大変危険だという。みどりと花の課の対応に感謝！)

～しぜんのコラム 59～

ホソミイトトンボ

自然環境の変化等により多くの生きものたちが姿を消しつつある中、最近増えた生物もいる。たとえば、秋の森では、ホソミイトトンボというスマートなイトトンボを見かけることが多くなった。10月14日開催の緑ネット観察学習会でも、関さんの森の屋敷林では、約10頭のホソミイトトンボを確認している。

ホソミイトトンボは、千葉県レッドリスト(2019年)では、以前の「最重要保護生物」から「重要保護生物」にランクが下がったが、ここ1～2年は見かける機会がさらに増え、今や千葉県では「普通種」と言ってもいいだろう。本来、西日本に分布していたトンボだが、温暖化により北上傾向にあり、2022年には白河の関を越えて福島県にも現れている。



ホソミイトトンボ越冬型 2024.10.14 関さんの森(屋敷林)

ホソミイトトンボは年2回発生する。秋に羽化した成虫は、森に移動して越冬する。日本で成虫越冬するトンボは、他にもオツネイトンボ、ホソミオツネイトンボがいるが、いずれも越冬時は小枝にとまり、体の色も枯木色に擬態しているから、見つけるのは困難だ。暖かい日は、飛ぶこともあるから、その存在に気がつくこともある。

ホソミイトトンボは、春になると美しい水色に変り、水辺に戻ってくる。次回は、その交尾や産卵の様子を紹介しよう。

(山田純稔)

★松戸のみどり再発見ツアー (観察学習会) No.67

「戸定が丘から園芸学部の洋風庭園を経て浅間神社の極相林へ」

人の手で作られた戸定が丘歴史公園、園芸学部の庭園と自然が作り出した浅間神社の極相林を見てみどりについて考える (※戸定邸には入りません)

2月1日(土)9:30～12:30 (雨天中止) 参加費 500円ガイド料込 (会員は300円)

集合 JR松戸駅 西口デッキ 9:30集合

持ち物 飲み物、雨具、防寒

申込み・問合せ: 090-4078-3703 (藤田 18時以降)

その他 歩きやすい服装でどうぞ

※参加は申込制・先着30名 (1月15日より受付)